

## 船舶事故調査報告書

平成29年4月6日

運輸安全委員会（海事専門部会）議決

委員 庄司邦明（部会長）

委員 小須田 敏

委員 根本美奈

事故種類	火災
発生日時	平成28年6月20日 18時30分ごろ
発生場所	沖縄県糸満市喜屋武埼西方沖 喜屋武埼灯台から真方位272° 3.8海里（M）付近 （概位 北緯26° 04.9′ 東経127° 36.0′）
事故の概要	遊漁船南丸は、北東進中、火災が発生した。 南丸は、機関室に焼損を生じて沈没した。
事故調査の経過	平成28年6月23日、本事故の調査を担当する主管調査官（那覇事務所）ほか1人の地方事故調査官を指名した。 原因関係者から意見聴取を行った。
事実情報 船種船名、総トン数 船舶番号、船舶所有者等 L×B×D、船質 機関、出力、進水等	遊漁船 南丸、5.8トン ON2-1173（漁船登録番号）、個人所有 11.94m（Lr）×2.72m×0.83m、FRP ディーゼル機関、355.00kW、平成4年5月1日 第292-36843号（船舶検査済票の番号）
乗組員等に関する情報	船長 男性 43歳 一級小型船舶操縦士・特殊小型船舶操縦士・特定 免許登録日 平成20年6月19日 免許証交付日 平成25年6月6日 （平成30年6月18日まで有効）
死傷者等	なし
損傷	機関室に焼損（全損）
気象・海象	気象：天気 晴れ、風向 南、風力 3、視界 良好 海象：海上 平穏
事故の経過	本船は、船長が1人で乗り組み、釣り客5人を乗せ、平成28年6月20日18時00分ごろ沖縄県慶良間諸島南方沖の慶良間堆で釣りを終え、糸満市糸満漁港に向けて帰途についた。 本船は、船長が、操舵室の操縦席に腰を掛け、約17～18ノットの対地速力で喜屋武埼西方沖を自動操舵により北東進中、18時30分ごろ、後部甲板にて煙の発生に気付いた釣り客からの知らせを受け、操舵室右舷側の通風口（機関室排気用）から白煙が出ていること

	<p>を認めた。</p> <p>船長は、主機を低速にして操舵室床面に設けられた機関室のハッチカバーを開けたところ、充満した白煙と主機の上面付近に火炎を認めた。</p> <p>船長及び釣り客は、前部甲板に置かれた持運び式の電動ポンプとバケツにより、海水を掛けて消火を試みたところ、黒煙及び火炎が機関室から噴き出した。</p> <p>船長は、火勢が強くなったので消火を断念して機関室のハッチカバーを閉じ、携帯電話で海上保安庁に救助を要請し、自らが救命胴衣を着用し、釣り客が救命胴衣を着用していることを確認した上、本船に積んでいたブイ及びクーラボックス等をロープに括りつけて海面に流して釣り客と共に海へ飛び込んでそのロープに掴まった。</p> <p>釣り客3人は、来援した海上保安庁のヘリコプタに救助されて那覇空港に、また、船長及び釣り客2人は、本船の火炎に気付いて喜屋武漁港から来援した漁船に救助されて糸満漁港にそれぞれ着いた。</p> <p>本船は、来援した海上保安庁の巡視船等による消火活動中、23時40分ごろ沈没した。</p> <p>(付図1 事故発生場所概略図 参照)</p>
<p>その他の事項</p>	<p>本船は、船長が平成27年9月ごろ中古艇で購入し、月間使用日数が約10日であった。</p> <p>主機は、過給機付4サイクル6シリンダのディーゼル機関であり、燃料として軽油を使用し、総運転時間が約8,000時間であった。</p> <p>本船は、船長が出港前に機関室の点検を行った際、燃料の漏れ、異臭等の異常はなかった。</p> <p>船長は、本事故当時、釣りをしているときも主機を運転状態としており、帰航開始時にビルジの点検を行ったが、異常はなかった。</p> <p>本船は、本事故時、主機の警報が鳴らなかった。</p> <p>本船は、消火設備として機関室に自動拡散型消火器2個及びバケツを備え付けていた。</p> <p>船長は、消火ができなかったので本船の自動拡散型消火器が作動していなかったと本事故後に思った。</p>
<p><b>分析</b></p> <p>乗組員等の関与</p> <p>船体・機関等の関与</p> <p>気象・海象等の関与</p> <p>判明した事項の解析</p>	<p>不明</p> <p>あり</p> <p>なし</p> <p>本船は、喜屋武埼西方沖を北東進中、機関室から出火したものと考えられる。</p> <p>本船は、船長が、主機の上面付近に火炎を認めたので、機関室から出火したものと考えられるが、本船が沈没したことから、出火に至った状況を明らかにすることができなかった。</p>

<b>原因</b>	本事故は、喜屋武埼西方沖を北東進中、機関室から出火したものと考えられる。
<b>参考</b>	今後の同種事故等による被害の軽減に役立つ事項として、次のことが考えられる。 ・持運び式消火器を追加して備えることが望ましい。

付図1 事故発生場所概略図

